

# 短期全員留学プログラムの評価と事前授業のあり方 (実践報告)

原 めぐみ

## Study Report of Compulsory Short-term Study Abroad Program and its Preparation Courses

Megumi HARA

### 1. はじめに

2013 年 10 月、文部科学省は「トビタテ！留学 JAPAN」を開始した。これは将来世界で活躍できる「グローバル人材」の育成のため、東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される 2020 年までに海外留学に行く学生数を倍増させることを目標に掲げた留学促進キャンペーンである。

日本学生支援機構（JASSO）が行った「平成 28 年度協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果」によると、日本人学生留学派遣数の多い大学トップ 10 に関西圏の大学から関西外国語大学、立命館大学、関西学院大学、近畿大学、関西大学がランクインしている。この中でも全員必修留学というプログラムがあるのは関西大学と近畿大学である。関西大学の外国語学部在籍学生は、2 年次に 1 年間提携大学（英語圏以外の大学も有り）に留学する。近畿大学の国際学部グローバル専攻の学生は 1 年次秋学期からアメリカの大学へ 1 年間留学する。いずれのプログラムも語学学校で英語力をつけ、能力に応じて現地大学の授業を履修できるようになっている。このような留学派遣数を増やそうとする全国的な流れをうけ、本学の国際教養学科においても、短期全員留学を含む新カリキュラムが 2017 年度からスタートした。短期全員留学プログラムは、オープンキャンパスで、国際教養学科のコーナーに訪れた高校生や保護者が最も興味を持ち、質問が多く寄せられるプログラムであり、本プログラムの拡充は国際教養学科にとって最重要課題の一つであると考ええる。

## 2. 問題と目的

追手門学院大学国際教養学部国際教養学科の新カリキュラムでは、1 年次履修の総まとめとして 2 月 3 月に 1 年生全員がオーストラリアまたはフィリピンへ短期語学留学をするスプリング・セッションを設けている。スプリング・セッション実施までのプロセスはカリキュラム上で年間を通して、Reading（春・秋 2 単位）・Writing（春・秋 2 単位）などと同様にコアカリキュラムとなっておりサマーセッション（夏休み中に行われる 2 週間の国内英語集中授業）（4 単位）や、秋学期に留学先方面別に行われる留学事前演習（2 単位）と系統的に配列されている（表 1）。旧カリキュラムでは 2 年次以上の希望者のみを対象としたバンクーバー短期留学が行われていたが、新カリキュラムでは 1 年次を終了した全員が留学をするということもあり、今までの短期留学とは学生のモチベーションや心構えが異なることが予想されていた。

本研究の目的は初年度のスプリング・セッションにおける問題の所在を明らかにし、スプリング・セッション前に系統的に配列されたコアカリキュラムのあり方や学修内容について検討することである。さらに本研究では、出発前の秋学期に行われる留学事前授業の検討を加える。そのために参加学生に対し 2 回の質問紙調査を行った結果と TOEIC スコアを分析した上で、2 年目のプログラムに反映し、今後よりよいプログラムを学生に提供することを目標とする。

## 3. 研究の背景

大学や業者が主催で提供している留学プログラムへの応募は、一般的に各自が学修目的に応じ自発的に選択する。派遣交換留学は厳選な選考プロセスを伴い派遣者が決定される。このような応募型の留学効果に関する研究は、短期から長期間のものまで複数の研究者によって報告されている。本稿では、本学のプログラムと留学先や期間が類似している 3 つの研究の事例を挙げる。

倉増（2014）によると、セブの語学学校へ夏休みに 1 ヶ月間留学した英語英文学科 1 年生 36 名の留学前後の TOEIC スコアを比較すると 75.1 点高くなっていることがわかった。希望者のみが参加するという点と留学の前後それぞれ 3 ヶ月間に授業外課題として毎日 25 分オンライン英会話を課していた点が本学のプログラムと異なる点である。

久野（2011）の研究では、3 週間オーストラリアの語学研修に参加した大学 1-3 年生 22 名のうち 8 名と留学せずに日本で 10 ヶ月間 E ラーニング学習を行った大学 1 年生との英語力の伸びについて TOEIC Bridge 形式の試験を用いて検証を行った結果、2 つのグループの点数の伸びに統計的に差がないことがわかった。このプログラムの参加者も希望者だけを対象としており、さらに参加学生は英語を専門としない人間科学部の学生であったこと、午前の通常の英語の授業に加え

て、午後に学生の専攻に合わせた ESP (English for Specific Purpose) の要素を含んだ研修の授業があったことなどが本学のプログラムの状況とは異なる。

本学のスプリング・セッションは、全員参加型の語学留学であり、オーストラリアかセブか、2 週間か 4 週間かの期間の選択はあるが、自らが行きたい留学先を選び行う応募型の留学に行く学生と比較した場合、参加学生の意識は異なるを考える。学科全員留学プログラムに関する研究では、山川 (2017) の 2 年次後期に英語英文学科の全員が北米に約半年間留学するプログラムがある。1990 年度から選択制で行ってきた留学を 2013 年から全員留学に変更し、110 名前後の 2 年生がホームステイをしながらカリフォルニア州の 2 校 (2016 年度以降はカナダとピッツバーグの 3 地域に) の語学学校の授業と日本から一緒に行った学生のみで行う授業を受けるというプログラムになった。そのプログラムの英語力における効果は、TOEIC のスコアの伸びが留学前後で 60-70 点となっており、留学後の英語力は「英語による専門授業」に対応できるぐらいになった。山川 (2017) のプログラムは学科内の一学年全員留学という点では本学と同じだが、出発する年次、期間、現地での授業など異なる項目が多いことから、本学固有のプログラムの効果について評価し検証するに至った。

## 4. 研究の方法

スプリング・セッションに参加した学生が回答した質問紙調査とスプリング・セッション前後に学生が受験した TOEIC スコアの結果をデータとして収集し分析する。

### 4.1 研究の流れ

研究の流れを表 1 に示す。初年度の短期全員留学の評価と事前授業のあり方を検証するために、現地到着 1 週間後とスプリング・セッション終了時の 2 回にわたり、自由記述回答を含む質問紙調査を行った。2 回の質問紙調査を資料 1 と 2 に示す。現地到着 1 週間後の質問紙は、自由記述形式が 8 項目、自分の英語力やホームステイ・寮生活に関する不安の度合いを出発前と 1 週間後で比較する項目が 9 問、健康面や現地での授業や環境に対応できているかという項目 14 問からなる。23 問の選択形式の質問には 5 段階の段階評定で回答させた。スプリング・セッション終了時に行った質問紙調査は、語学学校、寮生活、ホームステイ、健康面、週末の過ごし方、スプリング・セッションで伸びた力や身についたスキルに関する項目 64 問と 11 問の自由記述形式の項目を含んでいる。質問紙調査の結果と共に、短期全員留学前後に 4 回行った TOEIC のスコア結果からも学生の英語力の伸びを分析する。さらに学科教員として、留学事前演習の授業やスプリング・セッションの引率を行った際に観察した学生の様子からも初年度のプログラムの評価と事前授業のあり方を考察する。

# 短期全員留学プログラムの評価と事前授業のあり方（実践報告）

表1：研究の流れ

|             | 4月 | 7月 | 8月                 | 9月-12月 | 2月                          | 3月 | 4月 | 7月 |
|-------------|----|----|--------------------|--------|-----------------------------|----|----|----|
| 質問紙調査       |    |    |                    |        | ①(現地到着1週間後) ②(帰国後すぐ)        |    |    |    |
| 留学に関するプログラム |    |    | サマーセッション<br>(学内留学) | 留学事前演習 | スプリングセッション<br>(短期留学2週間-4週間) |    |    |    |
| TOEIC受験回数   |    | ①  |                    | ②      |                             |    | ③  | ④  |

## 4.2 調査対象

調査の対象とした学生は、国際教養学科に属する1年生141名の学生である、学生の留学先と語学学校別学生数を表2に示す。

表2：留学先・語学学校別学生数

| 留学先           | 期間  | 語学学校       | 学生数 |
|---------------|-----|------------|-----|
| セブ            | 2週間 | セブ医科大学     | 27  |
| セブ            | 4週間 | セブ医科大学     | 40  |
| オーストラリア メルボルン | 4週間 | スインバン工科大学  | 7   |
| オーストラリア メルボルン | 4週間 | ディーキン大学    | 17  |
| オーストラリア ブリスベン | 4週間 | グリフィス大学    | 20  |
| オーストラリア ブリスベン | 4週間 | クイーンズランド大学 | 30  |

計141

## 4.3 短期全員留学の概要

セブは全員が2人1組で寮に滞在し、月曜日から金曜日まで寮に隣接した語学学校で、午前にマンツーマンレッスンを50分×4コマ、午後にマンツーマンレッスンを50分×2コマ、さらにグループレッスンを午後に50分×2コマ受ける。そして夕食後には自習の時間が2時間ある。週末にはフィールドトリップのようなアクティビティが用意されている。

オーストラリアでは全員がホームステイをし（クイーンズランド大学のみ学生2人につきホストファミリー1家族）、バスや電車で語学学校のある大学まで通学する。語学学校では、事前のテストによりレベル分けされたクラスで、午前2時間×2コマ（レベルにより時間が異なる学校もある）の授業を受けた後、午後は語学学校のアクティビティに参加したり、オンラインの宿題をしたり、友達やホストファミリーと自由に過ごすこともできる。

## 5. 結果と考察

スプリング・セッション現地到着 1 週間後の質問紙調査は、オーストラリア方面の学生が現地で紙に回答し引率教員が回収した。セブの学生の回答はグーグルフォームで回収した。その結果計 134 の回答があった。スプリング・セッション終了時の調査は学生全員に QR コードをメールで送り、グーグルフォームで回答を収集し、107 名の回答があった。質問紙調査の分析は、選択式の回答が平均値と度数分布から、自由記述回答は KJ 法により切片化した語とその頻度から分析した。

### 5.1 現地到着 1 週間後に行った質問紙調査の結果

#### 5.1.1 不安に関する項目

出発前と到着 1 週間後の英語力、留学先での授業、ホームステイや寮生活に対する不安を 5 段階「5 不安」「4 少し不安」「3 どちらでもない」「2 あまり不安ではない」「1 不安ではない」で回答させた。9 問（Q1-Q9）の質問の出発前の平均値が 3.67 だったが、1 週間後には 2.96 になっていた。9 問すべての質問の平均値が下がっていることから、1 週間である程度現地の生活や学校にも慣れ、不安が低くなっていることがわかる。その中でも出発前と 1 週間後で一番変化があった質問は Q6「留学先での授業について」であり、平均値が 3.9 から 2.6 に下がり、1 週間の差が 1.5 と最も大きかった。出発前に留学先の授業について「5 不安」「4 少し不安」と答えた学生は 91 人（67.9%）だったが、1 週間後には 30 人（22.3%）に減った。しかし、Q1「自分の英語力について」の平均値は 4.3 から 3.7 に減ったが、9 問の中で一番不安度の変化が少なく、77 人（57.5%）の学生が 1 週間後でも自分の英語力に「5 不安」あるいは「4 少し不安」と回答した（表 3）。具体的にどのような不安を抱えているかを知るために、次に自由記述回答を参照する。

表 3：自分の英語力について出発前と留学先到着 1 週間後との比較

|          | 平均  | 5         | 4         | 3         | 2         | 1        |
|----------|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|
|          |     | 不安        | 少し不安      | どちらでもない   | あまり不安ではない | 不安ではない   |
| 出発前      | 4.3 | 79(59.0%) | 32(23.9%) | 15(11.2%) | 3( 2.2%)  | 5( 3.7%) |
| 現在(1週間後) | 3.7 | 38(28.4%) | 39(29.1%) | 37(27.6%) | 14(10.4%) | 6( 4.5%) |

#### 5.1.2 自分の英語力に関する自由記述回答

Q1「英語力について具体的に何が不安でしたか・不安ですか」という質問の自由記述回答から、意味のまとまりで切片化した語を頻度順に示す。（ ）内の数字は出現回数を表す。出発前は、

「スピーキング（15）」「リスニング（13）」「通じるか／伝わるか（10）」などの会話に関する語が上位に表れていた。続いて「文法（10）」「語彙力・単語（9）」の順になっていた。しかし、1週間後の不安については「語彙力・単語（21）」が最頻度語になり、2位の「リスニング（10）」を大きく上回っている。出発前は自分の英語が通用するか、意思疎通ができるかという漠然とした不安であったが、1週間経ち、語彙力の無さから相手の言ったことを理解できなかったり、表現を知らないために、言いたいことが言えなかったりということを実感したようだ。そのことは、「知らない単語がまだまだある」「自分の言いたいことを英語に変えることが難しく語彙力に不安を感じた」という記述からも窺える。それと同時に1週間経つと、「通じる（9）」と感じている学生もいる。「少し片言でも相手に通じることがわかった」「単語でも伝わるので気が楽になった」という記述もあり、自分の英語力に関する不安が軽減していることが確認できる。

### 5.1.3 留学先での授業に関する自由記述回答

Q6「留学先での授業について具体的に何が不安でしたか・不安ですか？」という質問に対して、セブに留学した学生の出発前の不安は「マンツーマン（11）」「先生との相性（7）」「ついていけるか（6）」「話せるか（6）」とマンツーマンの授業に関する不安が大半を占めた。オーストラリアに留学した学生の授業に関する不安は「授業についていけるか（27）」ということに集約されていることがわかった。1週間後の不安はセブもオーストラリアも個人差が大きく、自由記述回答に使用されている表現の種類も増えている。セブでは「言いたいことを英語にできない」に代表されるような「日本語を英語にできない（4）」が最頻度の具体的な不安だった。オーストラリアでは「レベル別だから問題なかった」「授業はきついいけれども楽しいから不安はなくなりました」というような「授業についていけている（14）」グループと「先生の話す英語があまり理解できない」「ついていけない時がある」などの「授業についていけない（11）」グループに分かれることがわかった。さらに「仲良く・友達（4）」などのクラスメートとの関係性を表す語が現れた。オーストラリアに関してはレベル分けテストの結果で授業の難易度が決まるため、2年目に参加する学生には、到着した翌日などに受けるテストの重要性を再度認識させる必要がある。

初年度の引率中に授業開始直後は、「クラスのレベルが難しすぎる」などの相談が学生からあったが、わからないことはクラスメートや担当の先生に質問すること、それでもうまくいかない場合は、担当の先生にレベルの変更希望を申し出るように指示をした。しかしクラスのレベル変更を申し出た学生は50人中1人もいなかった。

## 5.2 スプリング・セッション終了時に実施した質問紙調査の結果

### 5.2.1 全体的なスプリング・セッション満足度に関する項目

Q44「スプリング・セッションは充実していた」とQ45「スプリング・セッションに満足して

いる」はどちらも平均値が4.5と高かった。Q64「スプリング・セッションに参加してよかった」も4.7と高い。さらにQ58「その他の留学プログラムや海外プログラムに参加したいと思う」も4.6と高く、「そう思う」「少しそう思う」の回答数は100人（93.5%）と多い。帰国直後の調査という時期ゆえであるのかもしれないが、93.5%の学生がもう一度行きたいと望んでいることは、スプリング・セッションが今後の学修行動に影響がある可能性が高いことが予想できる。実際に帰国後、派遣交換留学を目指しTOEICのスコアアップの方法を授業外で質問してくる学生が一定数おり、帰国後の春学期に行ったTOEICの補習授業に自主的に参加した学生もいた。

### 5.2.2 肯定的な回答が多かった項目

週末の過ごし方に関する項目Q38「週末の生活は充実していた」とQ39「週末の生活に満足している」はどちらも平均値が4.8と全質問項目中一番高かった。引率中も学生は自分達でブリスベンから電車かバスで1時間から1時間半かかるゴールドコーストまで足を伸ばし、テーマパークや観光地や買い物に行っていた。次に高かった項目は、Q54「スプリング・セッションで多くの人と出会うことができた」とQ55「他者との関係性を築く力がついた」が4.7だった。どちらも人との関わりに関する項目で、英語力だけではなく、スプリング・セッション中に多くの人と出会い関係性を深めることができたことは教育的にも好ましい効果があったと言える。Q7「語学学校で出された課題に積極的に取り組んだ」も4.7と高く、引率した語学学校は2校とも午後の授業がなく、学生は午後に積極的にオンライン課題などに取り組んだ後に、ホストファミリー宅へ帰宅していた。

### 5.2.3 寮・ホームステイでの具体的なトラブルに関する自由記述回答

Q23/Q32「寮/ホームステイ先でのトラブルは自分で対処することができた。（トラブルがなかった場合には「3」を選択してください。）」には、63人（58.9%）が「トラブルはなかった」と選択し、自分で対処することができたのは35人（32.7%）だった。残りの学生は引率教員あるいは現地の担当者やホストファミリーに助けてもらったと思われる。具体的なトラブルの自由記述回答ではセブは、「シャワーの温水がでなくなった（25）」「ベッドが壊れた（4）」「トイレの故障（3）」「虫が出た（3）」など、寮の施設に関する事が多かった。オーストラリアは、「食事が合わなかった/少なかった（4）」「ホストファミリーがアジア系だった（4）」などをトラブルと感じたようだ。2年目に留学する学生にはこのようなことが起こりうる可能性を伝え、トラブルが発生した際に誰に助けを求めるのかを引率教員が現地に滞在している最初の週に周知する事が必要である。

### 5.2.4 後輩への一言アドバイスの自由記述回答

Q66「スプリング・セッションに来年度参加する新1年生に対するアドバイスを自由に記入し

てください」には、「単語を知らなければ無駄な1ヶ月になる」のような、留学に行く前に英語力をつけてから留学に行った方がいいというアドバイスが18件で一番多かった。セブに行った学生は持ち物に関するアドバイスが多く、日本食を持って行くようにアドバイスしている。その他持って行った方がいい物としてセブは、バスマット、トイレトペーパー、ファブリーズ、パーカーなどの上着で、オーストラリアは、「服を多めに持って行った方がいい」というアドバイスがあった。

### 5.2.5 最も成長したことに関する自由記述回答

Q65「スプリング・セッションに参加して、自分自身が最も成長したと思える事柄を自由に記述してください」に対する回答をKJ法により切片化した語とその頻度を表4に示す。

表4：「スプリング・セッションに参加して、自分自身が最も成長したと思えることから」に対する記述回答の切片と頻度

| 切片化された語       | 頻度 |
|---------------|----|
| 英語力           | 15 |
| リスニング         | 14 |
| スピーキング        | 11 |
| 積極的に行動する      | 9  |
| 自分で（一人で考えて）行動 | 9  |
| コミュニケーション     | 8  |
| 積極的に話す        | 6  |
| 他国の友達ができた     | 6  |
| 異文化に興味(理解)    | 4  |
| 適応力           | 4  |
| 英語で話したいという気持ち | 4  |
| 価値観が変わった      | 3  |

これらの語をカテゴリー化すると、①語学力に関すること（英語力、リスニング、スピーキング、コミュニケーション）と②英語に対する態度（積極的に話す、話したいという気持ち）、③考え方（価値観、異文化理解、適応力）④行動力（自分で考えて行動）の4つのカテゴリーに分けることができる。英語力においてはリスニング・スピーキングに関するスキルが伸びたことを実感し、英語を含めた全般的なコミュニケーション力がついたと感じている。語学力だけではなく、保護者と離れて初めて長期間生活した学生も多く、生活面でも成長があったことが窺える。各カテゴリーを表す実際の学生の自由記述回答例をあげる。

#### ① 語学力に関すること

「話す力が伸びた。雰囲気でも会話することも大切だと思った」

「相手の言いたいことが理解出来るようになった」

「英語を頭の中で日本語訳しなくてもいい感じになりそうでした」

② 英語に対する態度

「伝わるかは分からないが英語でコミュニケーションを取ろうとする力」

「積極的な姿勢で英語に取り組めるようになった」

「英語を使う自信」

「英語を話そうとする気持ち」

③ 考え方

「海外の人と話して色々な考え方を吸収できた」

「価値観が変わった」

④ 行動力

「自分で考えて行動する力」

「色々な人と積極的に関わる力」

### 5.3 TOEIC スコア結果

2017 年度 7 月から 2018 年 7 月に学生が受験した 4 回の TOEIC スコアの平均点を表 5 に示す。留学前の 12 月と留学後 4 月の平均スコアを比べると 7.5 ポイント上昇していることがわかる。留学先別に平均点の差を比べるとオーストラリアは 9.0 ポイント、セブは 8.2 ポイントであり行き先によりあまり差がないことがわかった（表 6）。

表 5：2017 年・2018 年 TOEIC スコア

|           | n   | 平均    | スコアの差  | 標準偏差  |
|-----------|-----|-------|--------|-------|
| 2017年 7 月 | 148 | 317.7 |        | 83.1  |
| 2017年12月  | 136 | 345.6 | 27.9 ↑ | 89.8  |
| 2018年 4 月 | 120 | 353.1 | 7.5 ↑  | 93.7  |
| 2018年 7 月 | 109 | 412.7 | 59.6 ↑ | 114.2 |

表 6：行き先別留学前後 TOEIC スコアの差

| セブ        |    |       | オーストラリア |    |       |
|-----------|----|-------|---------|----|-------|
|           | n  | 平均    | 差       | n  | 平均    |
| 2017年 7 月 | 57 | 329.1 |         | 71 | 350.9 |
| 2017年12月  | 51 | 337.3 | 8.2 ↑   | 62 | 359.9 |

留学前後の平均点の伸びは 7.5 と微増であるが、帰国 4 ヶ月後の 7 月には帰国直後の 4 月と比べて、59.6 ポイント上昇している。2018 年 4 月のヒストグラム（図 1）と 7 月のヒストグラム（図 2）を比較すると、ボリューム層が 300-350 ポイントから 350-400 ポイントに移動しているこ

とがわかる。400 ポイント以上取得している学生も 4 月の 32 人から 7 月には 56 人に増えている。このことは、帰国後の 2018 年の春学期の必修英語科目が Communication（週 2 回）、English for Conversation（週 2 回）、English for Qualification（週 1 回）と充実していること、学生の学習動機がスプリング・セッションから継続していることが要因であると考えられる。

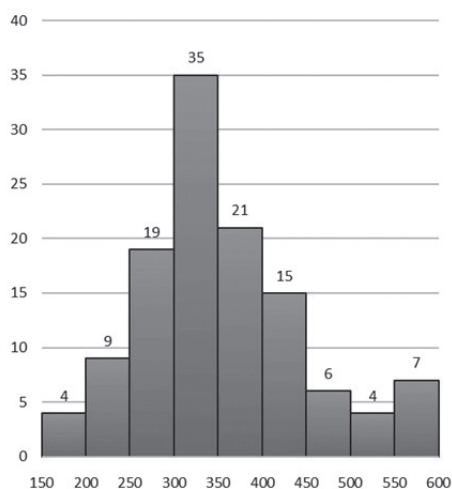


図 1：2018 年 4 月 TOEIC スコアのヒストグラム  
（帰国後すぐ）

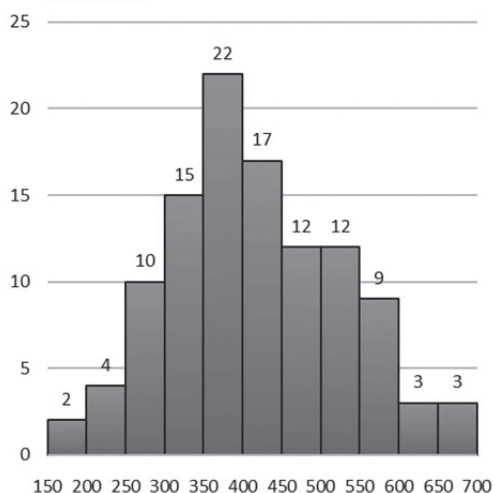


図 2：2018 年 7 月 TOEIC スコアのヒストグラム  
（帰国後 4 ヶ月）

## 5.4 留学事前演習の内容

### 5.4.1 留学事前演習の内容の共通化

留学事前演習は留学前の秋学期に週に 1 回必修科目として行われる。初年度は、留学事前演習の内容が 4 人の担当者に任されていたため、授業内容は統一されていなかった。そのため、到着 1 週間後調査の Q10「留学事前演習は役に立っていますか」という質問の回答は、クラスによりばらつきがあった。今年度からは 3 クラス共通した内容で行うことになり、留学先での衣食住をもとにシラバスを作成した。（資料 3）衣は現地の地理や気候や服装、持ち物について、食はホームステイ先や・寮生活での食生活、住はホームステイ・寮、インターネット環境、交通手段、週末の過ごし方、健康管理、語学学校でのスケジュール、アクティビティ、学習内容や学習方法について行う。それ以外の授業回は必要書類の作成、旅行会社からの説明、現地担当者からのプレゼンテーションを組み入れた。現地で必要な情報だけでなく、それに関する英語表現をカバーする教材も共通化した。別方面を担当する 3 名の留学事前演習の担当者とスプリング・セッション担当教員が全クラスの状況を把握する必要があるため、マイクロソフトチームスを使用し、毎授業時間後情報交換を行うことにした。

## 5.4.2 グループ作り

初年度に筆者が担当した留学事前演習では、行き先別にグループを決め、留学先の国、地域や語学学校について調べ、配付資料を作成し発表する活動を行った。留学先の情報を知るだけでなく、発表準備をする過程で仲間作りができ、その人間関係が留学先でも役だった。現地滞在中に各グループのリーダーが気づいたことを頻繁に引率教員に報告してくれたことが、大きなトラブルなしに4週間を過ごせた要因である。したがって、2年目は教員があらかじめ、グループとリーダーを決定し、最初の授業で発表した。秋学期の授業を通して、引率教員と一緒に滞在しない期間も、学生間で問題が解決できるような人間関係作りをすることが目標である。

## 5.4.3 スクラップブック作成（次年度への提案）

Kidd & Lee (2018) はアメリカに短期留学する事前準備の一つとして、現地の人と会話する際の材料となる自己紹介用のスクラップブックを学生に作成させている。作成することそのものが留学への心構えとなり、スクラップブックがあることで英語を話すことに戸惑いがちな学生も自信をもって会話ができるようになったという結果がでている。出発前スクラップブックに自分の家族や友達、住んでいる場所の写真や、紹介したい日本の文化などを説明する際に必要な情報を貼り、スクラップブックの残りの半分は現地に行ってから写真や訪れた場所のパンフレットなど貼ったり、現地で知り合った人からのコメントを書いてもらったりすることで、学生自身がスクラップブックを用いて留学を振り返ったり、次年度留学する学生へ留学先の様子を紹介することもできる。

初年度の引率中に学生と毎日会い、困ったことやホームステイの状況を聞いたが、「ホームステイファミリーと話が續かない」という悩みが多かった。スクラップブックを準備することで、自分の大学や家族、クラブ、アルバイトのことを紹介する際に、スマートフォンから写真を探すことなく説明ができ、ホストファミリーも写真を見ながら質問することができるので、会話をスムーズになる助けになるはずである。

## 5.5 2年目におけるその他の変更点

### 5.5.1 期間と留学先

オーストラリアの English Language Intensive Course for Overseas Students (ELICOS) の基準を満たした語学学校の授業は週に20時間の face to face の英語の授業を最短5週間1クールで行われていることになっている。しかし初年度のスプリング・セッションは4週間であった。そのため、本学の学生は他のクラスメートより1週間早くプログラムの途中で帰国することになった。アンケート調査からも、Q59「スプリング・セッションの実施期間は」という問いにオーストラリア方面に行った学生の39人(64%)が「短い」と「少し短い」と回答し、Q66「スプリング・セッ

ションをより良くするための提案を自由に記入してください」の記述回答でも「期間を長くする」という回答が9件あった。したがって、2年目のプログラムはオーストラリア方面へ行く学生の教育効果を高めるため、5週間のプログラムに参加させることにした。昨年度はブリスベンに行った学生の半数は、プログラム開始が2週間遅い語学学校に留学したため、出発と帰国時期に差があった。2年目はほぼ同時期にすべての学生が渡航できるように、プログラム開始時期が異なる語学学校の代わりに、開始日が同じであるアデレードのアデレード大学とフリンダース大学の語学学校を留学先として追加した。

### 5.5.2 渡航必要書類の提出

初年度はパスポートのコピーや誓約書の提出を秋学期の留学事前演習の授業で行った。秋学期の最初の授業を提出日に設定していたが、秋学期になってもパスポートを申請していない学生やその他書類の提出期限を守らない学生が多く、書類の回収に留学事前演習の時間を費やすことになった。今年度は4月の入学時オリエンテーションからパスポートを取得するように指導し、5月の説明会でパスポートの取得方法についての情報を配付した。スプリング・セッションに必要な書類をできるだけ春学期のリーディングの授業で回収するようにした。

2年目は教員が全期間引率しないため、「服用薬、アレルギーに関する質問票」を国際交流教育センターが作成し、詳細を聞く必要がある学生に対しては個別に面談した。外国のパスポートを保持する学生に対してもサマーセッションの間に説明会を行い、個々の手続きに関する対応は旅行会社および国際交流教育センターが行うことになった。スプリング・セッションは学科教員だけでなく、国際交流教育センターや教務、旅行会社、留学先の担当者と連携して行うことが不可欠であり、国際教養学科の窓口を明確にするために、2年目からスプリング・セッション担当教員として筆者が学科外の機関との連絡およびとりまとめを行っている。

### 5.5.3 引率教員の引率期間

初年度はすべての留学先において出発から帰国まで学科教員が引率した。初年度の質問紙調査から1週間で学生の不安がある程度軽減されることがわかったため、2年目は出発から1週間程度のみ教員が引率することになった。引率から帰国した後も、学生の様子がわかるように、学生には留学中「留学ジャーナル」を毎日グーグルフォームで提出させる予定である。「留学ジャーナル」の記入項目は、一日が「無事終了した」あるいは「トラブルがありました」を選択する項目、問題報告、日誌、大学への報告やリクエスト、毎週金曜日に週末の予定を入力する項目がある。学科全教員がいつでも見る事ができ、もし問題などがある場合は、日本から担当教員がメールあるいは、電話でコンタクトとる事ができる。また教員が全期間引率しないことを考え、学生全員に着信時に費用がかからない携帯電話を持たせることにした。今後は、スプリング・セッショ

ンを経験した学生がメンターとして引率ができるように指導し、先輩学生にとってもスプリング・セッションが継続的に学びの場になるようなサイクルを作ることが望ましい。

## 6. 課 題

今後の課題は、2年目に変更した点について継続的に効果検証を行うことである。さらに留学前後の英語力の伸び率を測る方法として TOEIC だけでなく、留学中に上達する可能性が高いスピーキングを測るテストを導入することも検討すべきである。今後、1年次のスプリング・セッションにより高まった学生の英語学修に対する動機づけがどのぐらいの期間継続するのか、2年次以降のカリキュラム内でどのように発展させていくのかが重要な課題ではあるが、これはスプリング・セッションにのみ特化する課題ではなく、新カリキュラム全体の課題でもある。初年度にプログラムに参加した学生が卒業する際に、スプリング・セッションの経験がキャリア選択に影響したかどうかということについても調査していく必要がある。

### 参考文献

- Australian Government Federal Register of Legislation (2018) “ELICOS standards 2018” <https://www.legislation.gov.au/Details/F2017L01349>
- 独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO) (2017).「平成 28 年度協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果」  
[https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl\\_student\\_s/2017/index.html](https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_s/2017/index.html)
- 川喜田二郎 (1967).『発想法』中公新書.
- Kidd, D. and Lee, R. (2018). Designing and Developing a Study-abroad Scrapbook. 26th Annual 2018 Korea TESOL International Conference, Seoul, Korea, October 2018
- 久野寛之 (2011).「3 週間の短期海外語学研修が大学生の英語能力に及ぼす効果について」『北海道文教大学論集』北海道文教大 12:127-145
- 倉増泰弘 (2014).「セブ島における語学留学プログラムの構築」『梅光学院大学論集』梅光学院大学 47:43-58
- 松宮新吾 (2018).「2017 年度国際教養学科「スプリング・セッション」実施結果報告書 (速報版)」追手門学院大学 国際教養学科:1-48
- 文部科学省 (2013).「トビタテ！留学 JAPAN」  
<https://www.tobitate.mext.go.jp/>
- 山川健一 (2017).「〈実践報告〉学科全員留学プログラムの評価を目指した留学後の学生アンケートの質的・量的分析」『京都大学高等教育研究』京都大学 23:1-11



資料2：スプリング・セッションに関するアンケート調査（プログラム終了時）

スプリング・セッションについて、以下の設問に教えてください。

1. あなたが参加したプログラムは

セブ4週間 セブ2週間 クイーンズランド グリフィス スインバーン ディーキン

《語学学校（大学）について》

2. 英語学習のプログラムは充実していた。
3. 英語学習のプログラムに満足している。
4. 英語学習のプログラム内容は自分の能力に合ったものだった。
5. 語学学校（大学）の学習環境は充実していた。
6. 語学学校（大学）の学習環境に満足している。
7. 語学学校（大学）で出された課題（予習・復習・レポート等）に積極的に取り組んだ。
8. 語学学校（大学）の担当教員は良かった。
9. 語学学校（大学）の担当教員の授業での指示はよく理解できた。
10. 語学学校（大学）の担当教員の授業の説明はよく理解できた。
11. 語学学校（大学）の担当職員（スタッフ）は良かった。
12. 語学学校（大学）では積極的に海外からの留学生と関係を持った。
13. 語学学校（大学）でのトラブルは自分で対処することができた。【具体的なトラブルの内容】（記述式）
14. 語学学校（大学）で心的なストレスや不安を感じるがあった。【具体的な内容と理由】
15. 授業欠席について【欠席回数と理由】（例：1回・体調不良）欠席なし 欠席した
16. 授業遅刻について【遅刻回数と理由】（例：1回・寝坊）遅刻なし 遅刻した

《寮生活について（セブのプログラム参加者のみ）》

17. 寮生活は充実していた。
18. 寮生活は満足できるものだった。
19. 寮の食事は満足できるものだった。
20. 寮の居住環境は満足できるものだった。
21. 寮のルームメイトとは良好な関係を持つことができた。
22. 寮に滞在している海外からの留学生と積極的に関係を持った。
23. 寮でのトラブルは自分で対処することができた。【具体的なトラブルの内容】
24. 寮生活で心的なストレスや不安を感じるがあった。【具体的な内容と理由】

《ホームステイについて（オーストラリアのプログラム参加者のみ）》

25. ホームステイ・プログラムは充実していた。
26. ホームステイ・プログラムは満足できるものだった。
27. ホームステイ先の食事は満足できるものだった。
28. ホームステイ先の居住環境は満足できるものだった。
29. ホストファミリーと積極的に関わり合いを持った。
30. ホストファミリーと良い関係を築き上げることができた。
31. ホームステイ先から語学学校（大学）への通学に不便を感じた。
32. ホームステイ先でのトラブルは自分で対処することができた。【具体的なトラブルの内容】
33. ホームステイ先で心的なストレスや不安を感じるがあった。【具体的な内容と理由】

《留学期間中の健康管理について》

34. 健康上のトラブルの有無について【具体的なトラブルと対処方法】
35. 季節、気温、湿度、大気、天候等の自然環境の違いが健康に影響を及ぼした。
36. 食事の違いが健康に影響を及ぼした。
37. 生活環境（寮生活・ホームステイ）の違いに影響を受けた。

《週末の過ごし方やWi-Fi（通信）環境について》

38. 週末の生活は充実していた。
39. 週末の生活に満足している。【不満な理由：2または1を選択した場合】

短期全員留学プログラムの評価と事前授業のあり方（実践報告）

40. スマホなどの Wi-Fi 環境にトラブルはなかった。 41. 日本の家族に頻繁に連絡をした。
42. 追大の学生に頻繁に連絡をした。 43. 付添の先生に頻繁に連絡をした。【理由】  
《スプリング・セッションに対する総合評価・伸びた力や身についたスキルについて》
44. スプリング・セッションは充実していた。 45. スプリング・セッションに満足している。
46. スプリング・セッションで総合的な英語力が伸びた。
47. スプリング・セッションで英語を聞く力が伸びた。
48. スプリング・セッションで英語を話す力が伸びた。
49. スプリング・セッションで英語を読む力が伸びた。
50. スプリング・セッションで英語を書く力が伸びた。
51. スプリング・セッションで異文化理解力を高めることができた。
52. スプリング・セッションで異文化対応（適応）能力を高めることができた。
53. スプリング・セッションで環境適応能力を高めることができた。
54. スプリング・セッションで多くの人と出会うことができた。
55. 他者との関係性を築く力がついた。
56. トラブル・シューティング（問題解決能力）の力がついた。
57. スプリング・セッションで自分自身をよりよく理解することができた。
58. その他の留学プログラムや海外プログラムにも参加したいと思う。
59. スプリング・セッションの実施期間は？【あなたが目標を達成するために必要な留学期間は？】
60. 留学期間中に治安面で不安を感じることがあった。【具体的な内容】
61. 出国・帰国の移動時に不安を感じることがあった。【具体的な内容】
62. スプリング・セッションの期間中（付添の先生がいなくても）自律的・自発的に行動することができた
63. スプリング・セッションについての情報は十分でしたか？
64. スプリング・セッションに参加して良かった。
65. スプリング・セッションに参加して、自分自身が最も成長したと思える事柄を自由に記述してください。
66. スプリング・セッションをより良くするための提案を自由に記入してください。
67. スプリング・セッションに来年度参加する新 1 年生に対するアドバイスを自由に記入してください。  
【後輩への一言アドバイス】（例：出発までに、……………しましょう。）

### 資料3：留学事前演習シラバス

授業概要:Spring Session の事前学習を行う。現地での生活を念頭に、基本的な英語表現のトレーニングを行う。

また、英語で相手とコミュニケーションをするトレーニングをする。フィリピンおよびオーストラリアの地理、歴史、通貨、交通など、現地での生活のための基本的な情報を収集する。渡航に関しての事務的な作業も行う。

授業計画：

1. イントロダクション（昨年度の経験者からのコース紹介、班分け、写真撮影）
2. イントロダクション（講義概要、授業計画、成績評価基準の解説）及びホームステイまたは寮に関する書類の準備
3. 現地の地理や気候に関する英語表現
4. 現地の食生活に関する英語表現
5. 現地の地理や気候および服装に関する英語表現
6. 現地のホストファミリーや寮で使う英語表現
7. 説明会（第三回）に関する内容とネット環境についての情報確認
8. 現地の英語研修所のスケジュール、アクティビティに関する情報とそれに関する英語表現
9. 現地の英語研修所での学習内容、学習方法の情報とそれに関する英語表現
10. 現地の交通手段と週末の過ごし方の情報とそれに関する英語表現
11. 現地への持ち物に関する情報とそれに関する英語表現
12. 留学先別のプログラム（現地文化に関する英語表現）
13. 現地での健康管理に関する情報とそれに関する英語表現
14. 現地での危機管理に関する情報とそれに関する英語表現
15. 留学先別のプログラム（出国帰国便、乗り換え、連絡方法などの最終確認）

